

ミシンを学ぶ授業のためのパワーポイント教材 「学んで、作って たのしいミシン」

指 導 の 手 引

この手引は、パワーポイント教材の操作手順と、スライドの説明内容を示したものです。

はじめに

フォルダには、次の9つのファイルが入っています。

- 1- ミシンについて学ぼう.ppt……………パワーポイントファイル
 - 2- ミシンの使い方を学ぼう.ppt……………パワーポイントファイル
- ミシン01.wmv ~ミシン07.wmv……………Windows Media Player ファイル

パワーポイントを再生するときは、パワーポイントファイルをダブルクリックしてください。

手引のみかた

ファイル番号 - スライド番号 ————— ● 2-7

そのスライドの最終画面



講師の説明 (例)

- 針に糸を通さずにミシンを動かすことを「からぬい」といいます。からぬいをすることで、針と布の動きを確かめることができます。手は両手で布を支えるように軽く置きます。

画面をクリック
(パワーポイントが次へ進みます)

- ▼ 布は手前から奥へ進みます。
 - ▼ 針のところに手を入れません。
 - ▼ 作業をしている人に触れたり、作業中の人のはずみ車やコントローラーには触りません。
- からぬいの手順を映像で見てください。

映像再生ボタンをクリック
(Windows Media Playerが立ち上がり、映像を再生します)

映像「からぬい【まっすぐにぬう】」

映像を閉じるときは、パワーポイント画面をクリックして画面を切り替えるか、Windows Media Player画面の右上にある×印をクリックしてWindows Media Playerを終了します。

では実際に、からぬいをしてみましょう。
また、「返しぬいレバー」を押して、布の動き方を確かめましょう。

全体構成

1. 知識編

ページ	スライドタイトル	内容
1	①ミシンについて学ぼう	表紙
2	ミシンで、こんなものが作れるよ!	導入
3	【クイズ】ミシンの名前の由来	ミシンの歴史
4	ミシンの歴史	
5	ミシンのうつりかわり	
6	ミシンの種類	ミシンの種類
7	【クイズ】ミシンのしくみ	ミシンのしくみ
8	ミシンのしくみ【ぬい目のでき方】	
9	手ぬいとミシンぬいのちがい	
10	ミシンのしくみ【動き方】	
11	ミシンを使う仕事につくには?	ミシンと仕事
12	(クレジット)	

2. 実習編

ページ	スライドタイトル	内容
1	②ミシンの使い方を学ぼう	表紙
2	ミシンの準備をしよう	ミシンの基本操作
3	はずみ車を動かしてみよう	
4	おさえレバーを動かしてみよう	
5	コントローラーを使ってミシンを動かしてみよう	
6	針をつける	
7	からぬい【まっすくにぬう】	
8	からぬい【角の曲がり方】	
9	下糸の準備	糸の準備
10	上糸の準備	
11	ぬい始め	直線ぬい
12	ぬい終わり	
13	作品づくりでのぬい始めとぬい終わり	
14	うまくぬえないときは?	
15	チャレンジしてみよう!	作品・コンクールの紹介
16	(クレジット)	

1-1

(知識編表紙)



▼ みなさんのおうちにミシンはありますか？ ミシンを使ってみたことのある人はいますか？

ミシンは、いろいろなものを縫うことができる機械です。私たちの生活のあらゆるところで活躍しています。

「①ミシンについて学ぼう」では、ミシンの歴史、種類、しくみ、機能など、ミシンという機械について学習します。

1-2

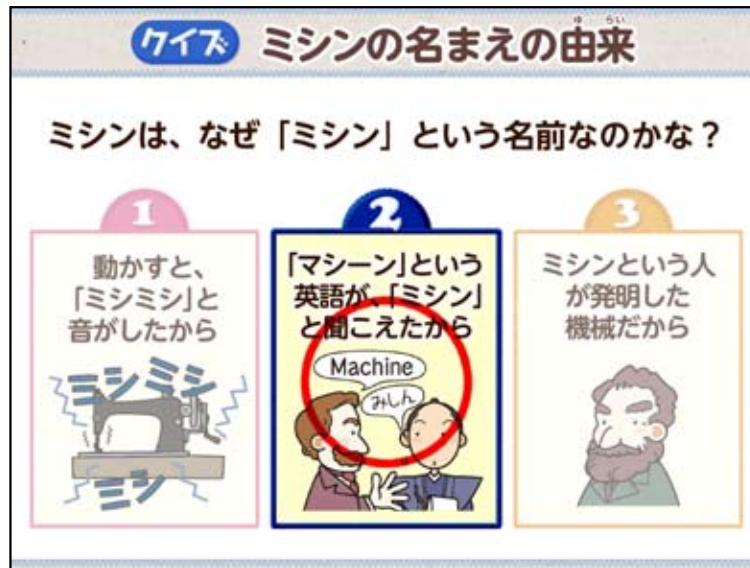


私たちの身のまわりには、ミシンで縫うことによって作られたいろいろなものがあります。

1枚の布は、そのままでは着ることができませんが、布と布を縫い合わせることで人の体を包み込む衣服になります。また、中に物を入れられる袋になります。(衣服・かばん)

- ▼ バレエの舞台などで使われる複雑なデザインの衣装も、ミシンで作られています。(舞台衣装)
- ▼ ミシンは、布だけではなく、ランドセルや革でできたカバン、靴などを縫うこともできます。(ランドセル)
- ▼ これはミシンで作った刺繍です。コンピュータミシンを使うと、いろいろな絵柄や模様、文字などを刺繍することができます。(ミシン刺繍)
- ▼ 車のシートは、合成繊維や革などを専用のミシンで縫い合わせて作られています。(車のシート)
- ▼ パラシュートやテントなどの野外で使う製品も、専用の布をミシンで縫い合わせて作られています。
(パラシュート)
- ▼ 宇宙服は、宇宙飛行士一人ひとりのサイズに合わせて、特殊な素材をミシンで縫って作られています。
(宇宙服)
- ▼ (すべての写真を表示)

1-3



ところで、ミシンはなぜ「ミシン」と呼ばれるようになったのでしょうか？

- ▼ ① ミシンを動かすと、「ミシミシ」と音がしたから。
- ▼ ② 「マシーン」という英語が「ミシン」と聞こえたから。
- ▼ ③ 「ミシン」という人が発明した機械だから。

さて、どれでしょう？

▼ 答えは、②です。

ミシンは、アメリカやヨーロッパで発明され、江戸時代にアメリカから日本に伝わりました。

ミシンのことを英語で「ソーイング・マシーン」と言います。「ソーイング」は裁縫、「マシーン」は機械を意味するので、「ソーイング・マシーン」は「裁縫の機械」という意味になります。この「マシーン」が日本人には「ミシン」と聞こえたのではないかとされています。


【参考資料】

ミシンの名の由来には、別の説もある。「マシーン」のドイツ語「メンチェン」が、日本人には発音しにくく、誰かが「ミシン」と発音したのが日本中に広がった、というもの。

ミシンの歴史

ミシンの発明から日本伝来まで

1790年	イギリスでトーマス・セントが世界で初めてミシンを考案し、特許を取る
1800年代	ドイツ、フランス、アメリカでもミシンが発明され、使われ始める
1854年	アメリカのペリーが江戸幕府へミシンをおくる
1860年	江戸幕府の使節がアメリカからミシンを持ち帰る



**江戸時代に日本へ
やってきたミシン**

ミシンはいつ・どこで生まれ、どのように進歩してきたのでしょうか。ミシンの発明から、日本へ伝わるまでを見てみましょう。

ミシンが生まれるまで、衣服は1枚1枚手縫いで作られており、貴重で高価なものでした。しかし文明が進歩するにつれて、布と布を自動的に縫い合わせることができる機械を発明しようとする人が出てきました。

世界で最初にミシンを発明した人は、イギリスで家具作りをしていたトーマス・セントです。1790年、セントの発明はイギリスの特許を取りました。しかし、この発明はミシンの原理を考案しただけで終わりました。

(トーマス・セントの肖像)

▼ トーマス・セントが発明したミシンは、特許が取られてから83年後に、ニュートン・ウイルソンという人が復刻しました。それが、この写真です。今のミシンとは、ずいぶん形が違いますね。このミシンは、1878年にフランスのパリで行われたパリ万博に出品されました。(トーマス・セントが発明したミシン)

▼ 1800年代には、ドイツ、フランス、アメリカでもミシンが発明され、工場などで使われるようになりました。この頃のミシンは、手で回して動かすものでした。写真は、アメリカ・シンガー社の1号機(1853年製)です。

(1800年代のアメリカのミシン)

▼ 日本に初めてミシンが伝わったのは、江戸時代末期の1854年です。アメリカからペリーが黒船でやってきたとき、将軍家へミシンが贈られました。また、1860年には江戸幕府の使節団がアメリカへ行き、ミシンを持ち帰りました。写真は使節団が持ち帰ったものと同じ型のミシンです。(江戸時代に日本へやってきたミシン)

【参考資料】

●**ペリーの贈り物**：1853年(嘉永6年)、アメリカ・ペリー総督率いる黒船が浦賀港に来港し江戸幕府に開港を迫る。翌1854年、ペリーは横浜に再来港。13代将軍徳川家定に贈られた献上品の中に「シウイング・マシネ (sewing machine の和式発音) = ミシン」があった。ミシンを初めて使った人は、家定の御台所である天璋院敬子(篤姫)といわれている。

●**遣米使節**：1860年(万延元年)、江戸幕府は「日米修好通商条約」の批准交換のため、遣米使節をアメリカに送った。使節団の護衛船「咸臨丸」には勝海舟や中浜万次郎(ジョン万次郎)が乗船していた。航海の途中に立ち寄ったホノルルで、彼らはアメリカの婦人にミシンを見せてもらい、見慣れない機械が手縫いとは比べものにならない速さで布を縫っていく様子にたいへん驚いたという。

1-5



日本にミシンが伝わったのは江戸時代後期ですが、ミシンが実際に使われるようになったのは明治時代以降のことです。日本におけるミシンの移り変わりを見てみましょう。

明治時代、多くの人が普段着に着ていたのは手縫いの和服でした。その後、だんだんと洋服を着る人が増えてくると、洋服を縫うためのミシンが必要とされるようになりました。

▼ 初期のころのミシンは手回しミシンでした。手で「はずみ車」という滑車を回して動かします。持ち運びのできる大きさで、卓上に置いて使用しました。(手回しミシン)

▼ 戦後、ミシンは一般家庭にも急速に普及していきました。これは、昭和20年代～40年代頃に活躍した「足踏みミシン」です。足元の踏み板を踏んで、ベルトに繋がっているはずみ車を回します。手回しミシンよりも速く縫え、両手も使えて便利になりましたが、ミシンの台があるので持ち運びはできなくなりました。(足踏みミシン)

▼ 現在、家庭や学校で最も使われているミシンは電動ミシンや電子ミシンです。動力は人間の力ではなく電気になり、ミシンの台がなくなって小型化しました。(電動・電子ミシン)

▼ 電子ミシンがさらに進化したのがコンピュータミシンです。コンピュータのプログラムによって複雑な模様縫いや刺繍が簡単にできるようになっています。

これは、液晶タッチパネルのついた最新型のコンピュータミシンです。液晶パネルで縫い目の種類を選択したり、模様や文字などをレイアウトして刺繍することができます。(コンピュータミシン)

1-6

ミシンの種類		
家庭用 ミシン	 	家庭で使われるミシン 初心者向けから、複雑なししゅうができるものまで、さまざまな種類がある
ロック ミシン	 	ふちかがり用のミシン ぬいしろをほつれないように始末するミシンで、家庭でも仕事でも使われる
ししゅう 専用 ミシン	 	職業用のししゅうミシン 絵や文字など、さまざまなししゅうができる
工業用 ミシン	 	工場などで使われるミシン 特しゅうなものをぬうものや、1つのことだけを行うものなどさまざまな種類がある

現在ではさまざまな種類のミシンがあり、私たちの生活を支えています。

家庭用ミシンは、洋服や袋など、小物を作るのに適しています。初心者向けから刺繍やキルトなど高度な機能のついたものまで、たくさんの種類があります。(家庭用ミシン)

▼ これはロックミシンで、洋服の縫い代をほつれないように始末するために使います。種類によって糸を2本～4本使い、布の端をきれいに切り揃えながら縫っていきます。ロックミシンの縫い目は編み目のように作られるため、ニットやTシャツなど伸びる素材を縫うときにも使われます。(ロックミシン)

▼ これはプロが仕事で使う刺繍専用のミシンです。たくさんの糸を使って、絵や模様を作ったり、名前を入れたり、ワッペンを作ったりすることができます。(刺繍専用ミシン)

▼ 縫製工場などで使われているミシンは、たとえばボタン付けなど、1つのことだけを専門に行うものがほとんどです。左は縫製工場の様子、右はスーツやジャケットのポケットに付いているフラップ(ふた)を専門に縫うミシンです。工業用ミシンには、車のシートや、パラシュート、ソファ、革の鞆などを縫うためのミシンもあります。
(工業用ミシン)

▼ (すべての写真と説明を表示)

1-7

クイズ ミシンのしくみ

ミシンぬいに必要なものです。これは、何かな？



ボビン

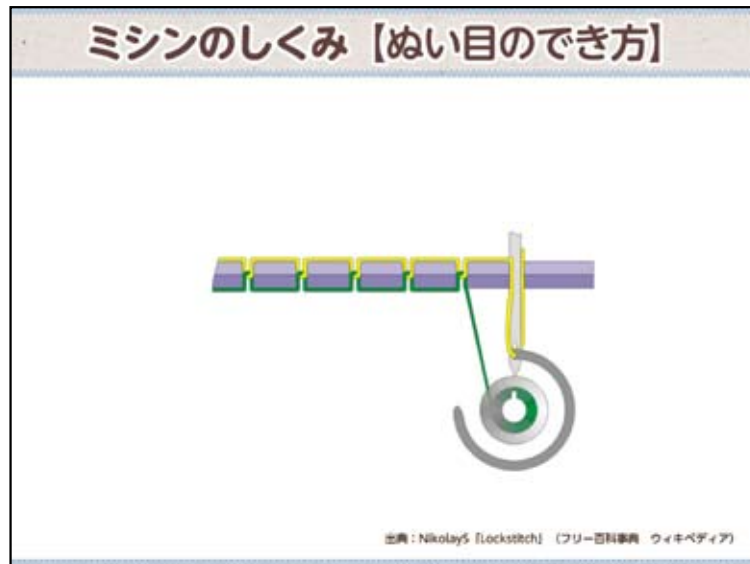
- 1 ミシンの下糸をまくためのもの
- 2 ミシン針を上下に動かすときのかっ車
- 3 ミシンを動かすモーターの部品

ここからは、ミシンのしくみについて学びます。

これは、ミシンで縫うときに、なくてはならないものです。何だと思いませんか？

- ▼ ① ミシンの下糸を巻くためのもの
 - ▼ ② ミシン針を上下に動かすときの滑車
 - ▼ ③ ミシンを動かすモーターの部品
- ▼ 答えは①です。これは、ミシンの下糸を巻くためのもので、「ボビン」といいます。

1-8



ミシンは、上糸と下糸の2本を絡ませて縫っています。
この絵は、ミシンが2枚の布を縫い合わせているところを真横から見たものです。
ミシンが動くと、どのように縫い目ができるかを見てみましょう。

▼ (動画)

針が布の下までおりてきます。

↓

針が上がるときに、かまの先が上糸を引っかけます。

↓

かまが回転し、上糸の輪の中をボビンがくぐります。

↓

針が上がり、ボビンをくぐり抜けた上糸が、ボビンから出ている下糸に引っかかります。

↓

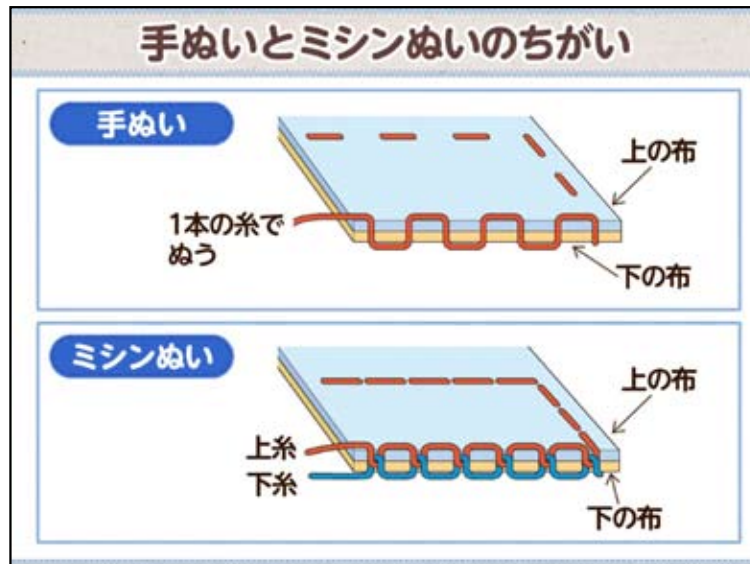
針がさらに上がり、2枚の布を縫い合わせます。

↓

布が送られて次の場所に移り、針がおりてきます。

この一連の動作を繰り返し、ミシンは縫い目を作っています。

1-9



手縫いとミシン縫いの違いを見てみましょう。それぞれの縫い目は、どのように違うのでしょうか。

▼ 手縫いは、1本の糸を使って縫います。なみ縫いの学習を思い出してみましょう。縫い目は、上の布と下の布に交互にできます。糸が1本なので、ほどけやすいということがあります。

▼ ミシン縫いは2本の糸を絡ませて縫います。縫い目は、上の布と下の布に同じようにできます。2本の糸が絡んでいるので、丈夫でほどけにくくなっています。また、ミシンを使うと速く、きれいに縫うことができます。

1-10



これはミシンを正面から見たところです。ミシン各部の名前と働きをみてみましょう。

- ▼ 「電源スイッチ」は、ミシンの電源を入れたり切ったりするスイッチです。
- ▼ 「はずみ車」は、ミシンの内部にある軸を回転させる滑車で、ミシンが動いているときは手前に回転します。手で回すときも、必ず手前に回します。
- ▼ 「天びん」は、上糸をにゆるみを与えたり、縫い目を引き締めたりする役目をしています。
- ▼ 「針棒」は、ミシン針をセットする所です。
- ▼ 布をおさえる装置を「おさえ」といいます。縫うときは、必ずおさを下げて縫います。おさは、「おさえレバー」で上下に動かします。
- ▼ この下に「かま」があります。かまは、ポビンに巻き付けた下糸をセットする所です。

では、映像でミシンの動きを見てみましょう。

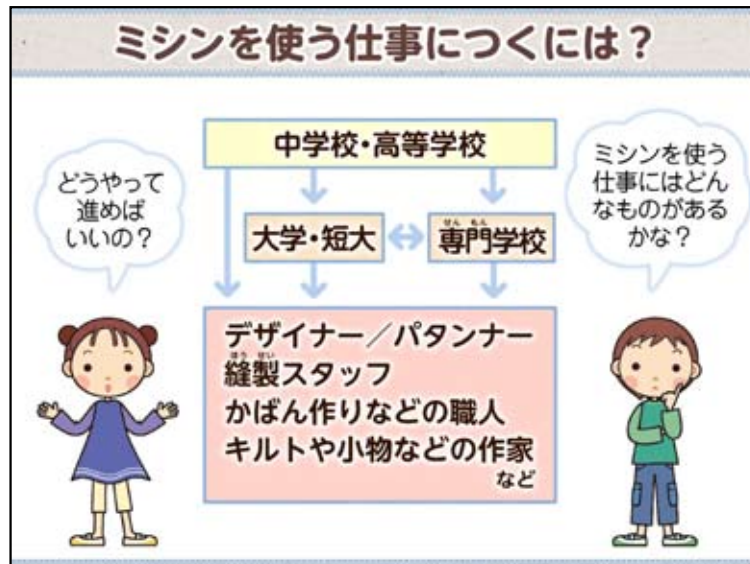


映像「ミシンの動き方」

ミシンが動いているときは、はずみ車が手前に回転しています。

ミシンの内部には、このはずみ車とつながっている軸があり、回転する動きを垂直の動きに変えて、針や天びんを上下に動かしたり、かまを回したり、送り歯を水平に動かしたりしています。

映像を閉じるときは、パワーポイント画面をクリックして画面を切り替えるか、Windows Media Player画面の右上にある×印をクリックしてWindows Media Playerを終了します。



ミシンは便利で楽しいものです。そのミシンを使って、ファッションデザイナー、パタンナー※、縫製スタッフ、鞆や財布などの職人、キルトや小物の作家などになることができます。

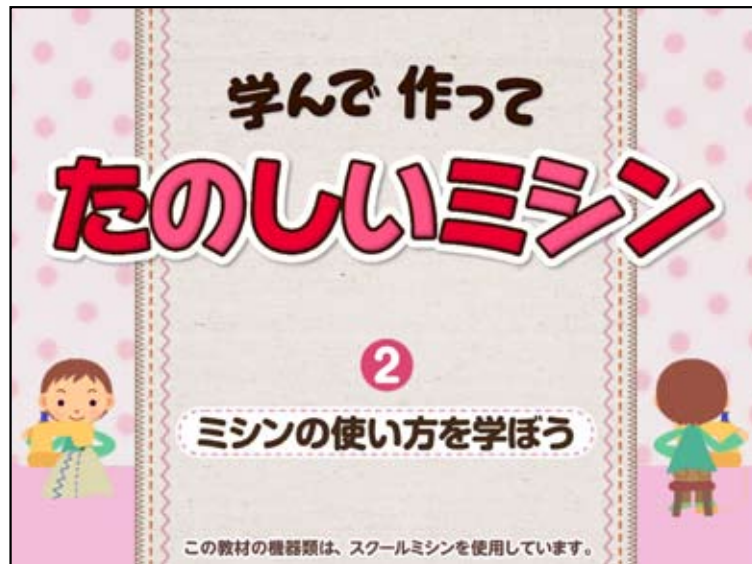
では、どうすればそのような仕事に就くことができるのでしょうか。

▼ このような仕事に就くための道は、1つではありません。また、こうすれば必ずなれるという方法もありませんが、比較的近道といえるのは、やりたい仕事のある企業や工房に就職し、一から技術を学ぶことです。そのために、大学や短大で広く知識を学んだり、専門学校で専門的な知識や技術を学ぶことが役に立つ場合もあります。大学や専門学校には行かずに、仕事をしながら知識や技術を習得し、活躍している人もたくさんいます。

※パタンナー：洋服のデザイン画を型紙（パターン）におこす専門職。服を作るための総合的な知識や技術が必要とされる仕事です。

2-1

(実習編表紙)



▼ 「①ミシンについて学ぼう」では、ミシンの歴史やしくみなどを学びました。

「②ミシンの使い方を学ぼう」では、ミシンの使い方を学習します。

使い方を学んだら、実際にミシンを使って、生活に役立つものを楽しく作ってみましょう。

2-2



ミシンを準備するときは、次のことに気をつけましょう。

▼ ミシンを運ぶときは、さまざまなタイプのミシンがあるため、取扱説明書に従って安全に注意して運びます。カバーを上からかぶせるタイプの場合は、ミシンを下から両手でしっかりと持ちます。

▼ カバーの金具がしっかりとまっているかどうか確認しましょう。金具がとまっていない状態でカバーを持つと、ミシン本体が落ちたりして危険です。

(ここで、ミシンを机上に準備させます。)

作業台にミシンを置いたら、ミシンのカバーをはずし、電源コード、コントローラーがあることを確認します。本体の電源スイッチが切れていることを確認します。

次は電源コードとコントローラーを本体につなぎます。コントローラーはひざの真下の足もとに置きます。

▼ 電源プラグを抜いたり差したりするときは、必ずプラグを持ちます。

▼ 危ないので絶対にコードは引っ張りません。

2-3

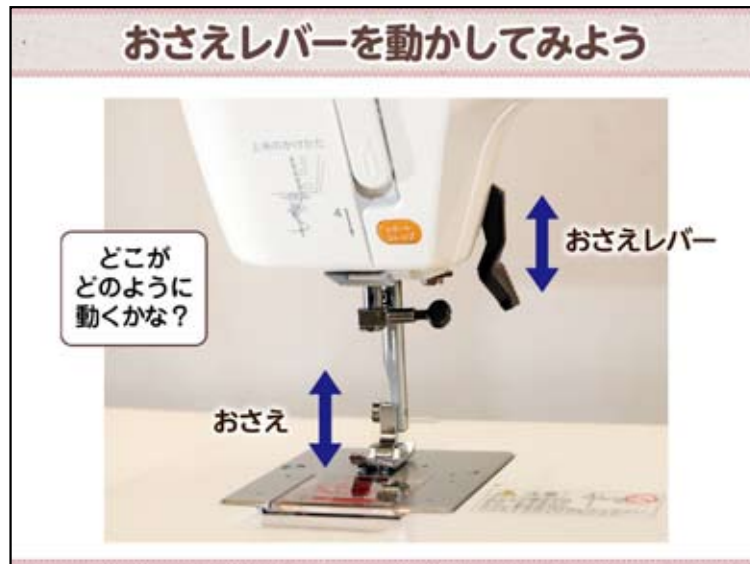


ミシンが動いているとき、はずみ車は自動で回転しています。
しかし、ミシンで作品を作るときには、手ではずみ車を回すこともあります。

▼ 電源スイッチを入れない状態で、はずみ車を手前に回してみましょ。はずみ車は、必ず手前に回します。向こう側に回すとミシンは正しく動作しません。

▼ どこがどのように動きましたか。何度もやってみて確認しましょう。

2-4



次に、おさえレバーを動かす練習をしましょう。

おさえは、縫うときに布が浮かないようにして、正しく布を送る助けをするものです。

おさえを上げたままでは縫うことができません。

▼ おさえレバーをゆっくり下げてみましょう。どこが動きましたか。

レバーを上げたり下げたりして、おさえの動きを確認しましょう。

2-5



縫い始めるときは、コントローラーを踏みます。

コントローラーを踏む強さによって、ミシンの動くスピードが変わります。

ミシンの動きを止めるときは、コントローラーから足を離します。

▼ ミシンの針棒が体の正面になるように座ります。

ミシンの電源スイッチを入れます。おさえは下げてください。

▼ ゆっくりとコントローラーを踏んでみましょう。

強く踏むとミシンが速く動き、コントローラーから足を離すと動きが止まります。

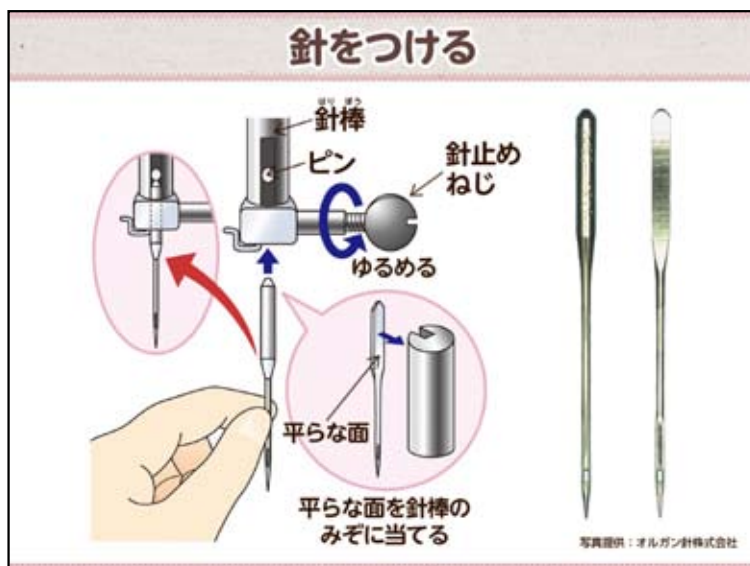
慣れるまで何度もやってみましょう。

▼ スピードコントロールつまみは、ミシンの動く速さを調節するつまみです。

「ゆっくり」に設定していると、強く踏んでも速くなりません。

【注意】コントローラーは急に強く踏まないようにします。縫うとき以外は足をコントローラーから離します。

2-6



針のつけ方を説明します。

まず、ミシンの電源スイッチを切ります。足はコントローラーから離します。

はずみ車を手前に回し、針棒を一番上まで上げておきます。

針をよく見て、先が曲がっていたり、折れていたりしないかを確認します。

▼ 針止めねじをゆるめます。

▼ 針の平らな面を針棒の平らな溝に合わせます。

▼ 針を下からピンに当たる（つきあたり）まで深く差し込み、ねじをしっかりとめます。ミシンに付いている専用ドライバーでしめると良いでしょう。

では実際に、針をつけてみましょう。

針をつけたら、はずみ車を手前にゆっくり回し、針先が針穴に入ることを確かめましょう。

【注意】 ミシン針は、「針棒」にある溝にぴったりとおさまるようになっています。針の向きが間違っていたり、針が上まで（つきあたりまで）入っていないと、針が折れたり、糸が絡んだりする原因になります。


2-7



針に糸を通さずにミシンを動かすことを「からぬい」といいます。
からぬいをすることで、針と布の動きを確かめることができます。
手は両手で布を支えるように軽く置きます。

- ▼ 布は手前から奥へ進みます。
- ▼ 針のところに手を入れません。
- ▼ 作業をしている人に触れたり、作業中の人のはずみ車やコントローラーには触りません。

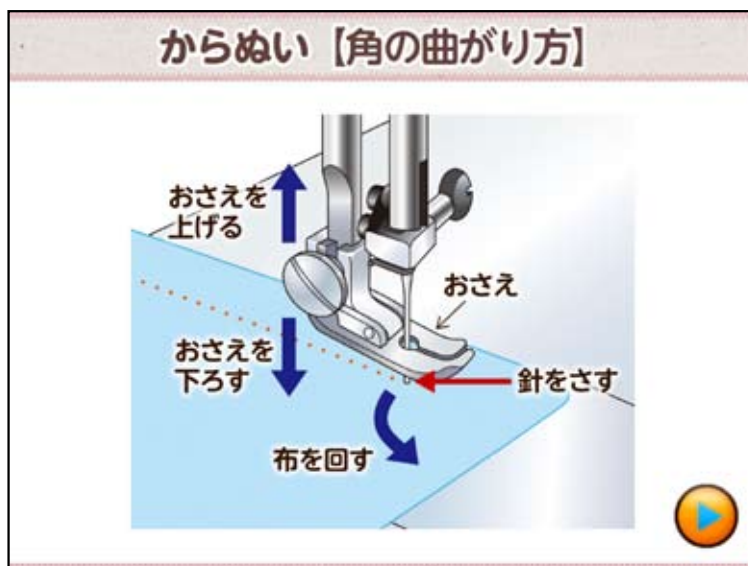
からぬいの手順を映像で見てください。

 映像「からぬい【まっすぐにぬう】」

映像を閉じるときは、パワーポイント画面をクリックして画面を切り替えるか、Windows Media Player画面の右上にある×印をクリックしてWindows Media Playerを終了します。

では実際に、からぬいをしてみましょう。
また、「返しぬいレバー」を押して、布の動き方を確かめましょう。

2-8



ぬう方向を変える（角を曲がる）ときの方法を説明します。

曲がる手前でミシンのスピードをゆるめ、曲がり角に来たらミシンを止めます。

- ▼ はずみ車を手前に回し、針を布に刺します。針が刺さっていないと、布の位置がずれてしまいます。
- ▼ おさえを上げます。
- ▼ 行きたい方向が手前にくるように布を回します。
- ▼ おさえを下ろして縫い始めます。

角を曲がる時の手順を映像で見てください。

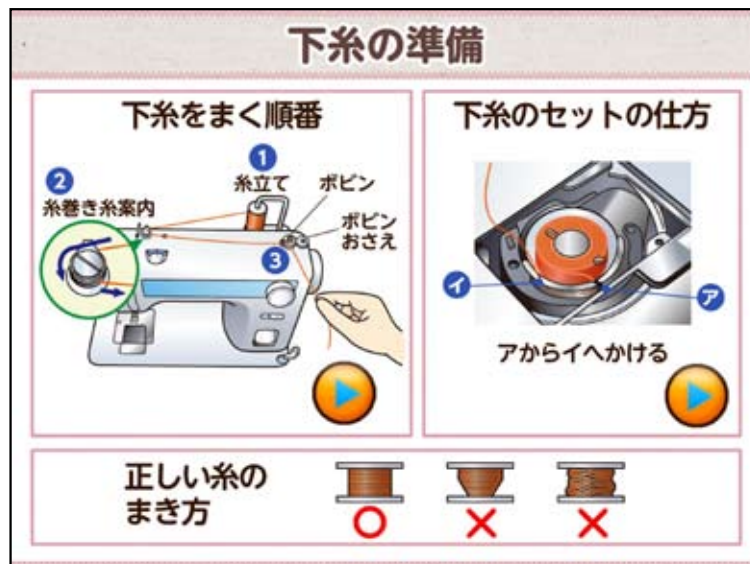


映像「からぬい【角の曲がり方】」

映像を閉じる時は、パワーポイント画面をクリックして画面を切り替えるか、Windows Media Player 画面の右上にある×印をクリックしてWindows Media Playerを終了します。

では実際に、角の曲がり方を練習してみましょう。

2-9



下糸の準備をします。まず、ミシンを使ってボビンに糸を巻き付けます。

▼ 糸を、糸立てにセットし、糸巻き糸案内にしっかりかけます。ボビンの穴に内側から糸を通し、下糸巻き軸にボビンを差し込み、ボビンおさえにおしつけます。

▼ 糸かけが正しくできていないと、巻き方がかたよったり、ゆるんだりします。このような巻き方は、うまく縫えない原因になります。ミシンのスピードが遅いと巻き方がゆるくなるので、スピードコントロールつまみは「速い」にセットします。

糸のかけ方の手順を映像で見てみましょう。



映像「下糸のまき方」

映像を閉じるときは、パワーポイント画面をクリックして画面を切り替えるか、Windows Media Player画面の右上にある×印をクリックしてWindows Media Playerを終了します。

では、実際に下糸を巻いてみましょう。

次に、下糸をかまにセットします。

▼ セットの仕方は、ボビンの向きを確認してかまに入れ、糸を（ア）→（イ）の順にかけます。

手順を映像で見てみましょう。

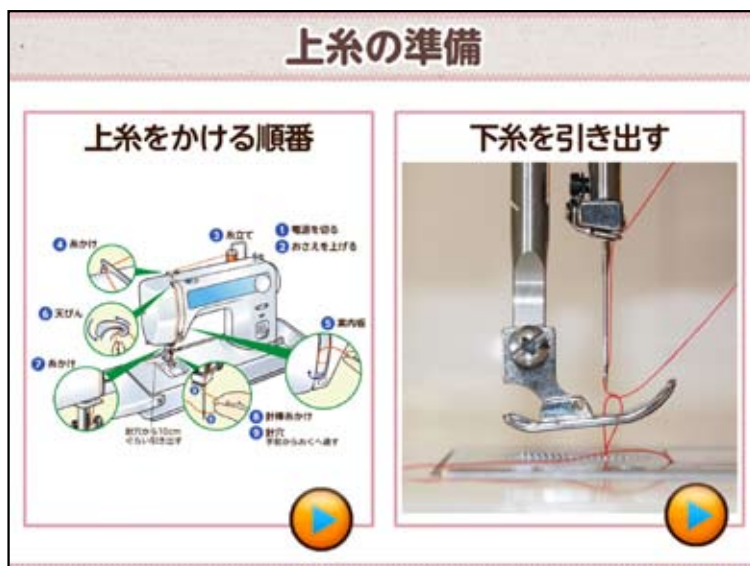


映像「下糸をセットする」

映像を閉じるときは、パワーポイント画面をクリックして画面を切り替えるか、Windows Media Player画面の右上にある×印をクリックしてWindows Media Playerを終了します。

では、実際に下糸をセットしてみましょう。

2-10



上糸の準備をします。

上糸をかける時の手順は、①から⑨の順です。

①電源はオフにします。②おさえを上げます。③糸立てに糸をセットし、④糸かけ、⑤案内板、⑥天びん、⑦糸かけ、⑧針棒糸かけの順に糸をかけます。⑨針穴に、手前から向こうへ糸を通します。

※ミシンの機種によってかけ方が異なる場合があるので、ミシンの案内に従って上糸をかけます。

手順を映像で見てください。

映像「上糸のかけ方」

映像を閉じるときは、パワーポイント画面をクリックして画面を切り替えるか、Windows Media Player 画面の右上にある×印をクリックしてWindows Media Playerを終了します。

では、実際に上糸をかけてみましょう。

▼ 次に、かまにセットした下糸を引き出します。手順を映像で見てください。

映像「下糸を引き出す」

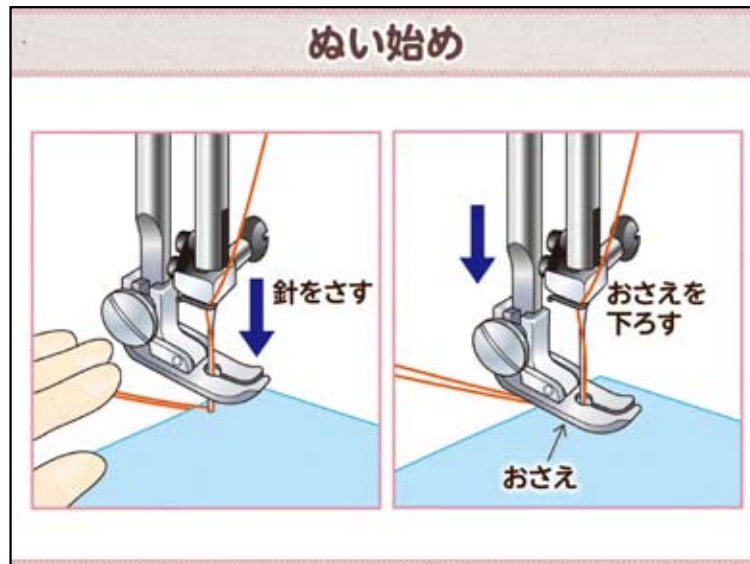
映像を閉じるときは、パワーポイント画面をクリックして画面を切り替えるか、Windows Media Player 画面の右上にある×印をクリックしてWindows Media Playerを終了します。

写真は、上糸を上へ引っ張って、下糸が輪になって上がってきたところです。

このようになるのは、天びんが一番高い位置にあるときです。天びんが下がっていると、下糸がうまく引き出せません。はずみ車を手前に回して、天びんを一番高い位置に上げておくことが大切です。

では、実際に下糸を引き出してみましょう。

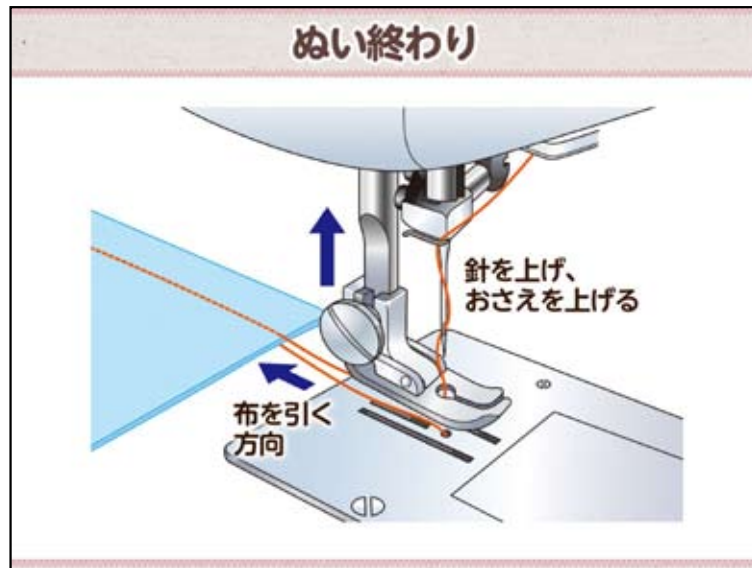
2-11



糸の準備ができたなら、布をおさえの下にセットしましょう。

- ▼ 出している糸を左手で軽く押さえながら、右手ではずみ車を手前に回して縫い始めの位置に針を刺します。出した糸を手で押さえるのは、はずみ車を回したときに、糸が引き込まれないようにするためです。
- ▼ おさえを下ろします。手を布にそえて、コントローラーをゆっくり踏み、縫い始めます。

2-12



縫い終わりは、コントローラーから足を離してミシンを止めます。

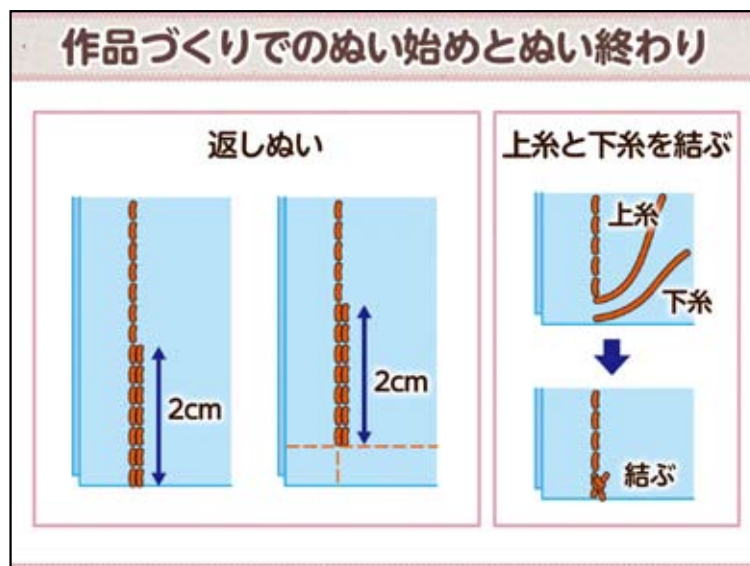
▼ ミシンを止めたとき、針が上がっているか確認します。上がっていない場合は、はずみ車を手前に回して針を上げ、天びんを一番高い位置にします。おさえを上げます。

※電子ミシンは、ミシンを止めると自動的に針が上がるようになっています。

▼ 布を向こう側へ引き、糸を15cmくらい残して切ります。

では、実際に縫ってみましょう。慣れてきたら、縫う方向を変えてみましょう。

2-13



実際に作品を作るときは、縫い始めと縫い終わりをほつれないようにするために「返し縫い」をします。

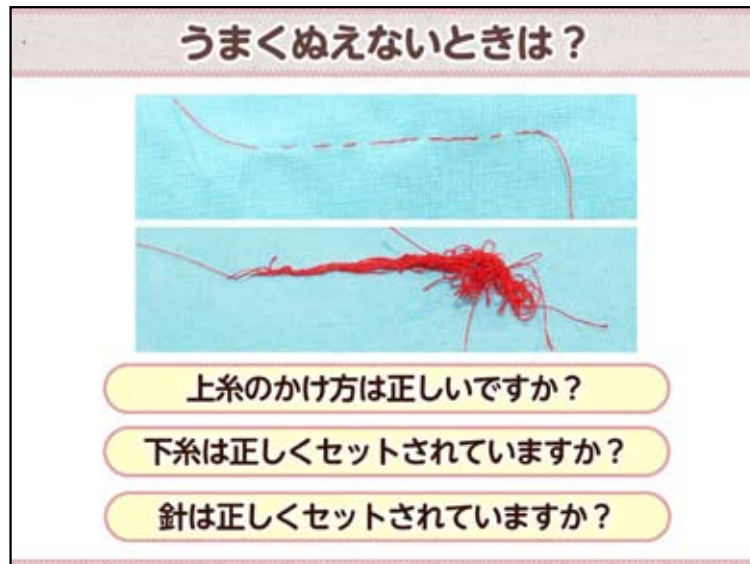
▼ 「返し縫い」とは、返し縫いレバーを押して同じ所を2度縫うことです。縫い目が強くなり、ほどけにくくなります。返し縫いの仕方は、縫い終わりの位置にきたら、返し縫いレバーを押します。レバーを押している間は返し縫いをし、離すと前進縫いに戻ります。返し縫いレバーがない場合は、角を曲がる時と同じやり方で、布を回して反対方向に縫います。

※ミシンの機種により、返し縫いレバーの位置や形は異なります。

▼ 縫い始めと縫い終わりの始末の仕方には、上糸と下糸を結ぶ方法もあります。上糸を引っ張って、下糸と同じ側に出し、上糸と下糸を結びます。

では、実際に返し縫いの練習をしてみましょう。

2-14



縫い目が不揃いになったり、糸が絡まったりしたときは、次のことを点検し、間違っていたらやり直しましょう。

- ▼ 上糸が正しくかけられているか、確認しましょう。
- ▼ 下糸のセットの仕方を確認しましょう。
- ▼ 針のつけ方が正しいか、確認しましょう。

2-15



これは、小学生がミシンを使って作った作品です。
水玉とチェックのリバーシブル生地を使った、色違いの親子エプロンです。
ポケットなどの細部にまでミシンが丁寧にかけてあります。

▼ エプロンと同じ生地で作った三角巾と巾着袋、エプロンを入れるバッグがセットになっています。生地の手柄を上手に利用して作られています。おそろいのアップリケがアクセントになっていて、かわいく、親子で料理をするのが楽しみになりそうな作品です。

▼ この作品は「ホームソーイング小・中・高校生作品コンクール」の小学生の部で最優秀賞に選ばれました。このコンクールは、小学5・6年生、中学生、高校生を対象に、ミシンで作った作品のできればアイデアを競うものです。

左は、コンクールの優秀作品を掲載した写真集で、毎年作られています。
右は、小学生の優秀作品の展示会場の様子です。

ミシンを自在に使えるようになると、いろいろなものが自分で作れるようになります。
みなさんもミシンを練習して、作りたいものやアイデアが浮かんだら、ぜひ作ってみましょう。うまくできたら、コンクールに応募してみましょう。